

学生大使 実施報告書

氏名: 宇佐見碧葉

学部・学科(コース)・学年: 農学部食料生命環境学科・1年

派遣先大学: ガジャマダ大学

派遣期間: 2月26日～3月12日

1 日本語教室での活動内容

日本人が16名と少人数で分けて教えやすい環境であったため、ひらがなカタカナなどの「初心者向け」、文法などをやりたい「中級者向け」、漢字や会話をしたい「上級者向け」といった分かれ方で授業をそれぞれ行った。私は文法や漢字、会話を多く担当した。文法では「は」と「が」の違い、自動詞他動詞の違いといったことまで質問してくれて、レベルが高い人がかなり多いなという印象を持った。漢字は小学校低学年くらいで習う漢字を教え、ガジャマダ大学の学生にもノートを取ってもらいながら進めた。その後教えたものの中から読み書きや熟語を作ってクイズを出した。かなり上級者の方には難しめの日本語をホワイトボードで書き、それを英語訳で当ててもらおうというクイズを出した。分からないところや難しいと感じたところを恥ずかしがらずに素直に質問してくれる姿勢がとても印象的で私も見習いたいと感じた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外では主に buddy の方々や日本語教室でみんなと仲良くなった方々が一緒にいてくださり、夜ご飯やホテルのロビーでのお話、トランプや UNO をして過ごした。ガジャマダ大学に通っている他の日本人の方々とも仲良くさせていただくことができ、外国で日本人との繋がりが広がったこともとても嬉しかった。休日にはボルブドゥール遺跡やクラトン、ビーチなどに行った。大人数での貸し切りバスにみんなで音楽を聴きながら移動するのがとても楽しかった。様々な観光地へ連れて行っていただき宗教的なことを知れたり、日本との文化の違いを感じたりすることができてよい経験になった。また、観光地へ行くだけでなくコンビニなどへ行く小さな移動の中でもいろいろな人とお話をすることが何より楽しかった。現地に住む多くの方々がラマダン期間であるにも関わらず、いつでも明るくて元気な姿に驚かされたとともに、私たちのことを思って様々なことを計画してくださっていることに感謝と尊敬の思いでいっぱいである。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標は簡単なコミュニケーションを行えるようになること、挑戦することを恐れない、積極性をもって能動的に活動することだった。簡単な英語でのコミュニケーションはまだまだ難しく、せっかく聞き取れても自分でどう話せばいいのかわからなくなったり、もはや聞き取れないという場面も多くあったりした。話せない、聞き取れないことの不安から日本語を話せる現地学生との会話ばかりが増えてしまってより多くの人との会話ができなかったことに悔いが残った。英語をもっと勉強してより多くの人とコミュニケーションが取れるようになりたいという意識が強くなった。挑戦することを恐れ

【学生大使 実施報告書】

ない、積極性を持って活動するという目標は少し達成できたと考える。なぜならいつも人に話しかけることすらも苦手で自分から話しかけることがなかなかできないが今回は現地の方々に自分から話しかけて会話していくこともできたからだ。少し成長できたのではないかと考える。待っているだけではなく自発的に行動することで何をしたいのか、伝えたいのかというのを相手に表現できると思うので恐れず行動することをこれからも心がけて生活していきたい。

4 プログラムに参加した感想

参加して良かった。家族へ言った感想も「参加して良かった」が一番初めに出た。

インドネシアに到着した初日は不安でいっぱいでも家に帰りたい気持ちでいっぱいであったが、段々と現地の方々と関わるうちに驚くほど馴染むことができた。毎日充実していて楽しい思い出が多くてきた。やってみたいと感じたことには積極的に取り組んでみるのが大切だと考えた。日本語教室では他国の方がこれほど日本に興味を持ってくれていること、勉強への意識の高さに驚いた。初の海外で日本との違いを多く痛感して少し困ったこともあったが日本での当たり前は世界での当たり前でないことが身をもって感じる事ができた。同時に日本へ観光に来ている他国の方々の感じ方にも少し寄り添えるような気持ちにもなった。トイレの違いには一番苦勞したが観光客向けに作られているホテルで過ごすよりも今回のような現地の方々と暮らしに近いところで生活することを味わえたのはとても良い経験になったと感じた。たった2週間で友達出来るのだろうか心配もしていたが明るく優しいインドネシアの方々のおかげですぐに打ち解けられたことがうれしかった。最後のパーティーでは授業をしたことがなかった方からもプレゼントを持ってきていただいて分け隔てなく接してくれる姿に感銘を受けた。また、帰国3日前に体調不良になり深夜に病院を連れて行ってもらった際、ずっと付きっきりで一緒にいてくれ、医師と私との通訳、病状の説明までして下さったことは本当に感謝してもしきれないほど助かった。一緒に行った日本人の仲間、現地の方々の優しさに救われた。本当にありがとうございました。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

初めての海外、初めて人へ教えるという経験をし、すべてが新鮮な毎日を過ごせた。これほど密に現地の方と接し、仲良くなれる機会というのはなかなかないことだと思うのでこの出会いを大切にしたいと感じた。また、日本語教室で質問された中で答えるのに難しかった質問についてなど日本語や日本のことについて興味を持って知識を増やしておく必要があると考えた。さらに、今回自分の気持ちを英語で伝えることができず申し訳ないと感じた場面が多かったため、様々な人とコミュニケーションが取れるよう今後は言語学習により力を入れていきたい。そして今回現地学生から親切にいただいたことを忘れずに彼らのように誰かを思いやって行動できるような人になっていきたい。

最後に今回 buddy の方々、現地学生の方々、イピ先生、牧先生、菅原先生そのほかにも多くの方々のサポートのおかげでプログラムを無事終了することができたことを心より御礼申し上げます。

6 現地での活動写真

写真1

日本語教室



写真2

動物園



写真 3

おいしかった大学食堂のランチ



写真 4

ココナッツジュース作り過程

